

# ひろしま菓子博2013を通じて、「国際平和文化都市 広島」を発信します。

(広島市)

第26回全国菓子大博覧会・広島 実行委員会委員長

たけうち やすひこ  
竹内 泰彦

**プロフィール**  
1932年生まれ。広島県出身。株式会社平安堂梅坪代表取締役会長。大学卒業後、家業を継ぎ、1974年に代表取締役社長、2010年8月に会長に就任。2002年から広島県菓子工業組合の理事長を務める。

開場時間について、平日は10時～18時としていますが、土・日・祝日は20時までの夜間開場を実施し、17時からの夜間入場券も販売します。夜間開場はコスト面の問題がありますが、会場の混雑緩和、来場者の満足感の向上にもつながります。

展示物の一部販売に

関して、これまでの大会においても、展示されているお菓子を近くで食べられたらいいというお客さまの声は耳にしていました。その要望に応えられるよう、ひろしま菓子博2013では、全国のお菓子約1,000点を購入できる「全国お菓子バザール」とは別に、全国の銘菓を並べて紹介する「全国お菓子めぐり館」で展示物の約1割を即売します。即売にはさまざまな問題をクリアする必要がありましたが、ようやく今大会で実現にこぎつきました。この取り組みは次の博覧会に必ず生かされると思います。

**Q** 広島ならではの特色はありますか。

竹内：「広島と世界のお菓子バザール」では約400点ものお菓子を販売します。そのほとんどが広島のもんです。「お菓子美術館」では、精巧につくられた工芸菓子が150点以上展示されます。さらに、歴史や交流、生活・文化などの観点からお菓子を紹介する「お菓子のテーマ館」の中に、シンボル展示として、お菓子で再現された「厳島神社」が設置されます。15分の1のスケールで、幅10m、奥行9mの迫力ある大きさで、過去の菓子博で出展された工芸菓子では最大級だと思います。特徴である社殿や回廊のほか、管絃祭や宮島清盛まつりの様子が見事に再現されており、ご覧になったお客さま

は圧倒されると思います。

また、「広島レモンスイーツ新商品開発プロジェクト」も特色の一つです。国内生産量日本一の広島レモンをPRしようと、製菓学校5校に協力を依頼し、学生にレモンスイーツの基本レシピを作成してもらいました。それをもとに、各企業と協力して、独自のスイーツをつくりあげています。現在は13社が開発中です。開発したスイーツを菓子博で発表し、お客さまに試食していただき、さらに完成度を高めていく計画です。一部は博覧会記念の広島レモンスイーツとして売り出す予定です。

**Q** 経済効果についてどのように予測していますか。

竹内：目標来場者は80万人に設定し、総事業費は16億円として開催します。経済波及効果は約150億円と見込んでいます。

**Q** 菓子博を通じて、広島という都市をどのようにPRしていきますか。

竹内：菓子博では、魅力ある展示で「人々を幸せにするお菓子のちから」を歴史・交流・生活・文化の側面から伝え、お客さまに満足していただくのと同時に、広島ならではのアイデンティティを表現することが重要と捉えています。

被爆から立ち直った強靱な市民の意欲、平和を求める気持ちは広島市民の心の根底にあるものです。国際平和文化都市・広島として、国際性と平和の視点に立ったメッセージを発信したいと考えています。

ひろしま菓子博2013は、人を元気に、地域を元気に、日本を元気にする日本最大のお菓子の博覧会です。皆さまのご協力があってこそ、大成功するものと考えております。ご協力、ご支援をよろしく願いたします。

インタビュー・構成：  
城市奈那（株式会社ジェイクリエイト）

**Q** 4月19日から第26回全国菓子大博覧会・広島（以下、「ひろしま菓子博2013」）が始まります。全国菓子大博覧会とはどのようなイベントでしょうか。

竹内：明治44年に東京赤坂溜池の三会堂で開催された「帝國菓子飴大品評会」が第1回の菓子博です。菓子税撤廃運動を通じて培われた菓子業者のつながりを大切にするために始まった業者大会で、全国のお菓子を一堂に集め、その技術を競い合う、伝統と権威のある品評会です。

広島では大正10年、当時の広島県立商品陳列所、現在の原爆ドームで第4回大会が開催されました。「ひろしま菓子博2013」は92年ぶりの広島開催です。会期は4月19日から5月12日までの24日間で、旧広島市民球場跡地と広島県立総合体育館とその周辺で開催されます。

**Q** ひろしま菓子博2013にはどのような特徴がありますか。

竹内：今回からの新しい取り組みは「再入場システムの導入」「夜間開場」「展示物の一部販売」の3点です。

再入場システムは、お客さまが会場外で食事や買い物、観光を楽しむよう、入場日に限り再入場を可能とするものです。スイーツカフェなどを除き、レストランは会場内に設置されないため、周辺施設の活性化が期待できます。